

2013 関東・東北学生トライアスロン選手権那須塩原大会

競技規則(ローカルルール)と主要注意

(出場選手は全員必ず熟読して下さい。)

●はじめに

本大会は、日本トライアスロン連合(JTU)競技規則に加え「関東学生トライアスロン選手権ローカルルール」(本紙)を設定して競技を行う。なお、特別に指定された項目以外はすべて共通とする。

●大会運営において

円滑な学生大会の運営を行うために、選手は必ず時間を守らなければならない。時間などの変更の伝達においては大会本部前に掲示する。選手は各人の責任で伝達事項について注意を払うこと。遅刻などにおいては厳重なペナルティーを課すこととする。

●競技規則・備品について

(1) 周回コースのため、周回数をミスカウントしないようサイクルコンピュータを装着することを奨励する。

(但し周回チェックは主催者が計測チップを使用して実施。この周回数をオフィシャルとする。)

(2) エアロボトルは、全体の形状が水を含むのに自然な形をしているもののみ認める。

(3) ホイールについては、コンポジットホイール、パトンホイールなどスポーク構造をしていないものを、前後輪のいずれか片方のみ装着できるものとする。また後輪のみディスクホイールを許可する。

(4) ハンドルのエンドキャップが外れている場合、原則としてレースの参加は認められない。

(5) 新機材、新製品、手作り品の使用については、受付時に申告し、個別検査を受ける。

(競技を行う際、特別な措置が必要な競技者は大会の前々日までに日本学生トライアスロン連合に申請すること)

(6) バイクはJTU競技規則、競技用バイク基準に則ったバイクでなければならない。基準に則っていない場合、参加は認めない。

(7) レースナンバーはナンバーおよび協賛企業名が見えるように装着する。レースナンバーが紙製で外れたり、破けたりすることがあるため、ナンバーベルトの使用を奨励する。ユニフォームにつけたレースナンバーが、外れるまたは破けた場合、審判・係員が確認できるように提示するか、競技中に付け直せば、競技を続けてよい。

●応援について

(1) 今大会は競技者以外のものが競技者に対して順位などの情報を与えることを認める。ただし、拡声器などを用いてはならない。また、応援者又はコーチが特定の競技者と伴走又は追走することを個人的援助

とみなし、禁止する。

●ウェアについて

- (1) フロントファスナーのウェアは使用禁止とする。 規定のウェアの準備が困難な場合は、当て布をして縫い付けるなど、ファスナーがあかないように対処すること。

●公式掲示板について

- (1) 大会期間中の伝達事項、及び当ローカルルールの変更は大会本部の公式掲示板で告知する。

●ペナルティーについて

- (1) ドラフティングペナルティー以外のペナルティーは「ストップアンドゴー(SG)ルールまたは、タイムペナルティー(TP)ルール」がその時のコース状況により、審判の裁量により適用される。TPルールについては違反の度合いによって、1回の宣告につき10秒以上のペナルティーを受ける場合がある。
- (2) バイクドラフティングに対して、固定マーシャルからでも警告ができるとする。これに従わない場合ペナルティーの対象となる。
- (3) 今大会のバイクドラフティングに対するタイムペナルティーは原則1分とするが、状況等を考慮しての減増は審判団の判断による。

●メディア規制について

- (1) 大会当日に競技者及び大会風景などを取材・撮影する際には、必ず大会本部の許可を必要とする。
- (2) 許可には身分証明と連絡先の提示を要する。これを提示しない者には、大会に関係する一切の取材・撮影活動を認めない。
- (3) 今大会は競技中トランジションエリア内の撮影は一切認めない。
- (4) 撮影中に挙動不審な行動が見られた場合は、スタッフが撮影した写真を確認することがある。

●主要注意

- (1) バイクコースの試走を行う時間は大会前日 11:00~15:00のみとし、その際はヘルメットの着用を義務づける。応援の人であっても大会会場周辺ではバイク乗車中ヘルメットを着用すること。試走の際、一時停止ラインでは係の指示に従い停止すること。これらに従わない場合ペナルティーの対象とする。
- (2) ナンバリングの場所にワセリン、ホットバalm、日焼け止め等を塗らないこと。
- (3) 雨天決行であるが、荒天で選手の安全確保が困難と判断される場合には、コース・競技の変更または競技が中止されることがある。
- (4) 前日のバイクチェックは行わないため、各自で責任を持ってバイクの整備を行うこと。また、メットチェックも各自で行うこと。
- (5) スイム競技で、運営側が決めた制限時間(45'00"; 下記参照)内で計測地点に到達しない場合は失格

とする。但し、時間内であっても水上レスキューから競技中止を判断された場合は、必ずその指示に従うこと。

(6)本大会においては、スペアホイールの設置エリアを設ける。競技者以外のものが競技者に競技中スペアホイールを受け渡すなどの援助行為を禁止する。

(7)競技の最中に競技者以外の者が競技者に対し補給物資や装備の受け渡しをした場合、受け取った選手は個人的援助行為とみなし失格とする。

(8)バイク競技中バイクの故障が発生し、かつこれを修理することによって競技の続行を希望する場合、審判員の指示に従って独力で処置をすることが認められる。

(9)レースナンバーは必ず身体の前後に取り付けること。

(10)一般客、ボランティア、大会役員、審判員などへの不躰な言動はペナルティーの対象とする。

(11)観客、プレス、主催関係者、そして地域住民に注目されていることを十分に認識し、良識ある行動を心がけ、大会関係者、ボランティア、地元の方々への挨拶、時間厳守、ゴミの処理、式中の私語は慎むなど、学生としての自覚をしっかりと持って行動すること。

(12)コースを離脱した場合においても、元の地点にもどれば競技を再開することができる。ただし原則としてコースの逆走及び停滞はしてはならない。

(13)リタイアする場合は、必ず本人もしくは代理人が大会本部もしくは審判員、大会役員（ボランティア除く）にレースナンバー 1 枚と計測バンドを提出すること。

(14)コップなどは指定された「ゴミ捨てゾーン」に捨てること。

(15)校旗やのぼりをフィニッシュゲートに取り付けることはできない。但し、フィニッシュ時のフラッグの受け取りは許可する。

(16)脱水症状にならないよう、水分摂取を心がけること。

(17)ペインティング、タトゥーシールなどは厳禁とする。

(18)フィニッシュ後はレースナンバーを速やかに外すこと。

(19)トランジションエリア開放後、バイクのピックアップに際して、原則選手本人が必ずレースナンバー（ゼッケン）を持参すること。

●スイム競技

(1)この大会においては水温の高低にかかわらず、ウェットスーツの着用を義務づける。

(2)入水チェックは指定された時間内でのみ行うことができる。各選手には入水チェックを行うことを推奨する。

(3)各選手は入水チェック終了の時間までに競技エリアに入らなければならない。入水チェックを済ませた選手は競技エリアから出ることができない。

(4)今大会のスイム競技の制限時間は男女ともに 45'00"とする。

●トランジション

- (1)競技中以外でトランジションエリアに出入りする場合は、レースナンバーあるいはボディーナンバーを競技役員に明示すること。
- (2)バイクをラックに掛けるときは、ラックナンバーが手前に見える向きのサドル掛けとする。違反した場合、15秒のペナルティを課すこととする。
- (3)ヘルメットのストラップはラックからバイクを取り出す前にしっかりと締めること。バイクフィニッシュ後は、バイクをラックに掛けた後にストラップを外すこと。
- (4)バイク乗車時は、ラインを足が1歩超えてから乗車すること。バイク降車時は、ラインの手前で足を1歩ついてから降車すること。
- (5)レースナンバーは前面が見えるようにすること。前後2枚の着用を義務づける。又、バイクを取り出す前に取り付けなければならない。
- (6)ウェア、レースナンバーを整えてからバイク、ラン競技に移ること。
- (7)競技中を除いて、審判員の許可がない限り、トランジションエリア内に出入りすることはできない。

●バイク競技

- (1)ドラフティング走行、集団走行、伴走は禁止する。警告を受けた選手は速やかに審判員の指示に従うこと。
- (2)ドラフティングゾーンは前輪の最前部を起点に後方7m、横幅3m(両サイド1.5m)とし、追い越しを試みている時(15秒以内)は前競技者のドラフティングゾーンに入る事ができる。(ただし追い越した競技者は、追い越すときの速度を持続させ、追い越された競技者の前輪の最前部から7m以上引き離してから、緩やかにキープレフト走行に入るものとし、キープレフト走行に入る前に速度を緩めてはならない。又、追い越された競技者は追い越された時から加速を止め、15秒以内に追い越した競技者の最前部から後方7m以上はなれてドラフトゾーンから脱しなければならない。)
- (3)追い越し中は、追い抜く意志を持って前進しているように見えなければならない。
- (4)キープレフトを順守し、追い越す場合には後方を確認し、右側から追い越すこと。二重、三重の追い越しは禁止する。
- (5)バイクを離れて走行することを禁止する。
- (6)追い越す際は、「右行きます」など、前走者に注意を促すこと。
- (7)コース状況によって審判員が発する減速などの注意をよく守って競技を行うこと。

●ラン競技

- (1)キープレフトを順守すること。
- (2)フィニッシュではサングラスを外し、観客にアピールすることを奨励する。
- (3)意図的な同着は認めない。
- (4)一度フィニッシュした選手が再度コース内に入ることは出来ない。
- (5)応援関係者および選手の、競技者への伴走を禁止する。

●その他

その他細則はJ T U競技規則に基づく。

(*) 下線部は特に重要箇所であるので、十分に認識するとともに、J T U競技規則も熟読の上で大会に臨むようにしてください。競技ルールについての質問は、大会前日に行われる開会式の競技説明会で受け付けます。また、変更などがある場合も競技説明会でお知らせします。

[日本学生トライアスロン連合審判委員会]